

令和7年度 大田区立梅田小学校 自己評価 報告書

令和8年1月8日

○ 本校の概要

○開校71周年 児童数973名(9月1日現在) ○学級数30学級 特別支援教室(5担任)拠点校 ○教職員数75名:校長1 副校長2 教員41名 養護教諭2 栄養士1 事務1 専門員1 都養講師6 事務補助2 副校長アシスタント1 学校講師1 学校特別補助員2 教員支援員1 読書学習司書1 学習補助員5 理科支援員2 登校支援員3 (民託:用務員3 児童誘導員2 施設管理員3 給食5 ALT2)
 ○令和2~4年度 東京都教育委員会・大田区教育委員会における情報教育やICT教育の推進 ○研究財産をさらに持続的・日常的なものに発展させ、校内研究を充実化 令和7年度 校内研究主題「単元内自由進度学習の単元開発～目標に向かって自ら学び続ける児童の育成～」
 ○梅田の学び「うわあ～大発見!」めざせ! ○Oマスター”だれとでも伝え合おう!”の推進・自主学習ノートのすすめ ○学年朝会の実施 ○「語先後礼」の励行 ○全校朝会での校歌斉唱 ○校内での俳句表彰 ○学年別音楽朝会
 ○体育的活動「梅田ハッピータイム」 ○読解力向上一校一取組(低学年)科学的読み物の推進 (高学年)新聞を読み、まとめることを推進。 ○読書の記録の表彰

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	方向性	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組今後の改善策	学校関係者記入欄			
								評価	人数	コメント	
生予個 き測別 困目 力難 標を な1 育未 成来 し社 会を 創 造 的 に	社会の様々な課題を自分事として捉え、主体的に考え、他者と協働し、問題解決していく意欲や、予測困難な未来社会を切り拓いていくために重要な創造力や課題解決力、情報活用能力を育成します。	①STEAM教育等の教科等横断的な学びや科学教育を推進し、課題解決力や新たな価値を創造する力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3	A 学習する際、「タブレット」端末を日常的に活用している。」と回答した児童の割合	4: 90%以上	○1年生からタブレット操作に慣れさせ、タイピングのスキルアップを実施している。また、各教科等で常時タブレットを活用することで、効果的な学習につなげている。今後も、引き続きスキルやソフトの扱い方の系統的な指導と併せて、情報モラル教育を強化することで、さらに情報活用能力を高めていく。	A	5	・学校公開などでSTEAM型学習が実践されていると感じています。一方で振り返りの場面ではタブレットをさらに活用できるのではと思いました。タブレットをさらに活用することで挙手による一部のこども達の意見だけでなく、多くのこども達の考えを収集することが可能になり、先生方のご負担も減らせるのではないかと考えます。 ・効率よく情報を得ながら学ぶことは必須の時代になったと思います。一方でじっくり時間を掛けて活字から学ぶ(小説を読むことも含めて)ことの大切さを教えたいです。 ・タブレット等に頼りすぎず、自分の感性を大切にすることも必要と思う。情報機器だけでなく、アナログの本物によりそくことも重要なことと思う。 ・ネット情報で知りたいことを得ることは重要と思うが、情報が全て正しいものとは限らず、事典などでチェックする方法を教えてください。 ・タブレットやスマホに頼りすぎるとのは心配です。便利ではありますが、使い方次第でしょうか? ・ICT教育は必要であり大切なことではあるが、それに頼りすぎているのではないかと不安に思えることもあります。特に低学年は、併せて翌日の持ち物や提出物について、まずは自分で書き、確かめるということも自立のためには必要と思います。 ・まなびへのアップの時間によっては確認が遅れたり、アップされていないと戸惑う様子も見られます	
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。		B 授業の終わりに学習の振り返りを行っている。	3: 80%以上					○日々の授業後の振り返り活動を実践しているが方法が形骸化しており、児童自身が目標や課題を意識した内容になっていない可能性がある。 児童に目標を設定させるとともに、学習後に振り返ることの価値や効果を実感させるための授業改善が必要である。そのことで、児童の学習の定着度や進度に応じた意識を高め、学習の意欲の向上を目指していく。
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。		3: 80%以上						
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。		2: 70%以上						
4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。	3	1: 60%未満								
お世個 お界別 たと目 をつ 標担 な2 うが 材国 を際 育都 成市 し ま す	英語での実践的なコミュニケーション能力を高めるとともに、我が国や郷土の伝統文化に触れ、尊重する心や、協力していく態度を育成します。また、国際社会・地域社会に関心をもち、持続可能な社会を形成していく態度を形成します。	①外国語教育指導員の活用などにより、英語に慣れ親しみながら会話をする機会を増やし、英語力やコミュニケーション能力の向上、豊かな国際感覚の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3	A 友達と仲良くしている。	4: 90%以上	○一層の人間関係形成能力を高めるため、すべての教育活動において、各教科等、道徳、特別活動内における他者とのコミュニケーション方法のスキルアップをしていく。 また、日常生活におけるあいさつや言葉遣いなどを集中した指導期間を設けるなどして、より良い生活が送れるようにしていく。	A	6	・こども達が多様な価値観や生き方に触れられるように地域で活躍している様々な大人と関わる機会を増やして欲しいと思います。その中で「世界は広くて、いろいろで、面白い」と感じ、世界に興味を持つ力を育てあげて欲しいと考えます。 ・ほぼ全員が友達と仲良くしている。との回答は素直にうれしく思います。全自動それぞれ大切な友達がいることを願います。 ・日本と国際社会をつなぐツールとして外国語のスキルアップはいうまでもないが、日本の伝統的な文化を重んじ、持続可能な社会を育てることが重要と思う。その上で地球規模の課題をとらえ、その解決に向けた考え方、行動力を身につけるよう望む。 ・世界で活躍する子ども達に期待しております。 ・仰げば尊し我師の恩(忘却の文化?)	
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。		B 友達と協力して学習している。	3: 80%以上					
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。		3: 80%以上						
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。		2: 70%以上						
た一個 め人別 の目 基と標 礎り3 がな個 る性 力と能 育力 成を し発 揮す る	児童・生徒が豊かな人生を生きていく上で基礎となる力として、豊かな心や確かな学力、健やかな体を育成します。また、乳幼児期から中学校までの一貫性のある教育を推進します。	①道徳科を中心とした各教科等での学習などを通じて継続的に道徳教育を実施し、豊かな情操や道徳心の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3	A 授業の内容を概ね理解している。	4: 90%以上	○継続的に公共心、規範意識等を醸成するために、道徳の授業や特別活動を中心に、児童にとって身近な事例等を取り上げ、自分事として捉えられるようにすることで、豊かな心を育むような取組を継続して行う。 ○主に算数少人数の習熟度別の学習において、児童の理解や定着度に合わせた授業の工夫を行い、個の定着度や理解度に応じた分かりやすい授業を実施していく。 ○各教科等における単元内自由進度学習を展開することで、児童の学習意欲の向上と自分の目標や課題を設定し、児童一人一人が見通しをもって学習ができるようにしていく。	A	7	・学校に来られないこどもが減っていることは、学校が安心して過ごせる場所と感じてくれているこどもが増えた結果だと感じています。ご尽力くださっている先生方に御礼申し上げます。PTAとしても、学校が楽しい場所であり続けられるよう、こども達が個性を發揮できるようにイベントなどでお手伝いできればと考えています。 ・これからは、いわゆる暗記力を試す勉強よりも他者を理解する力やコミュニケーション力、他者に説明する力、などを身につけた上で、様々な問題を解決する人間らしい人間が求められると感じています。健康意識(心身の健康)はその土台になりますし、習慣が大切ですね。 ・各教科の授業は児童一人一人の習熟度に合わせた指導がのぞましいが、それぞれ自分の習熟度に合わせた目標をもたせることにより、児童自らがチェックできるようにすることがのぞましい。 ・出来た人、出来る人。 ・子供たちの温かい心でランドセルを贈呈していただき(平成10年頃より)ました。 ・人間性が育つのは幼い時期だと思います。よろしく願います。 ・各自の生活習慣を見なおし、心身の健やかな育成と健康保持を意識づける。	
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。		B 健康に気を付けて生活している。	3: 80%以上					
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。		3: 80%以上						
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。		2: 70%以上						
児童・生徒が豊かな人生を生きていく上で基礎となる力として、豊かな心や確かな学力、健やかな体を育成します。また、乳幼児期から中学校までの一貫性のある教育を推進します。	②学習習熟度に応じた指導や個に応じた学習支援、各種検定の実施を通して、すべてのこどもに確かな学力の育成を図っている。	③体育や保健体育の授業など様々な機会を通して、健康教育や食育を推進し、基本的な生活習慣の確立を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	4: 90%以上	○継続的に公共心、規範意識等を醸成するために、道徳の授業や特別活動を中心に、児童にとって身近な事例等を取り上げ、自分事として捉えられるようにすることで、豊かな心を育むような取組を継続して行う。 ○主に算数少人数の習熟度別の学習において、児童の理解や定着度に合わせた授業の工夫を行い、個の定着度や理解度に応じた分かりやすい授業を実施していく。 ○各教科等における単元内自由進度学習を展開することで、児童の学習意欲の向上と自分の目標や課題を設定し、児童一人一人が見通しをもって学習ができるようにしていく。	B	3		
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。		3: 80%以上						
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。		3: 80%以上						
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。		2: 70%以上						
児童・生徒が豊かな人生を生きていく上で基礎となる力として、豊かな心や確かな学力、健やかな体を育成します。また、乳幼児期から中学校までの一貫性のある教育を推進します。	④乳幼児期から中学校まで円滑な接続を行うため、保幼小の連携や小中一貫の視点に立った教育を行っている。		4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	4: 90%以上	○継続的に公共心、規範意識等を醸成するために、道徳の授業や特別活動を中心に、児童にとって身近な事例等を取り上げ、自分事として捉えられるようにすることで、豊かな心を育むような取組を継続して行う。 ○主に算数少人数の習熟度別の学習において、児童の理解や定着度に合わせた授業の工夫を行い、個の定着度や理解度に応じた分かりやすい授業を実施していく。 ○各教科等における単元内自由進度学習を展開することで、児童の学習意欲の向上と自分の目標や課題を設定し、児童一人一人が見通しをもって学習ができるようにしていく。	C			
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。		3: 80%以上						
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。		3: 80%以上						
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。		2: 70%以上						

学 校 別 力 目 ・ 教 師 力 を 向 上 さ せ ま す	校内研究等のOJTの充実を通して、教師の授業力を向上させます。また、質の高い教育を実現するため、学校の組織的な運営力を向上させます。あわせて、教師がやりがいをもって働くことができる魅力的な環境づくりを進めます。	①児童・生徒一人ひとりの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の視点による授業改善を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	・学校公開時の保護者アンケートにおける肯定的授業評価の割合 97.0%▲ (85.8)	4: 90% 以上	○児童の実態及び個別最適な学びに応じた授業スキルを向上させるため、年2回以上の授業観察や校内研究を通して授業改善を行う。また、児童による授業後の振り返り内容や学校公開等のアンケート等を通して、客観的な視点からプラスとマイナス要因を分析し、授業改善に生かしていく。	A	8	・大田区内でも本校は落ち着いた雰囲気のある学校だと感じています。一方で6年生がタブレットを持ち帰れなくなるような出来事もございました。今後は、問題が大きくなる前に子ども達の声にも耳を傾けていただくなど「この学校なら大丈夫」という学校であり続けて欲しいと思います。 ・児童の実態を把握するため学校公開等のアンケートを活用し、授業改善に生かしている点はよい。 ・先生方には校内研究・校外研究等の機会を活用し、自己研鑽につとめていただき、学習内容を深め、意欲をもって指導にあたってほしい。										
		②教職員がそれぞれの専門性を生かしたり、地域の特色を生かしたりして教育活動を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。								3	3: 80% 以上	○校内研究を中心に、全ての教員が各教科等における単元内の自由進度学習から、児童の学びの質を高められるように授業展開及び実践する。そのことで、個の課題や進度に応じた学びを保てるようにしていく。かつ、他者等との対話的な学習を通して、より学習内容を深め意欲の向上を図れるようにしていく。	B	1					
		③教職員の業務適正化等に取り組み、児童・生徒に教員が向き合う時間を確保する等、ウェルビーイングを高める取組を行っている。	4:「おおむね高まっている」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 1:「おおむね高まっている」と回答した教員が60%未満であった。													3	2: 70% 以上	○業務内容の改善及び会議の精選やより教育効果が得られるような行事等の見直し等を随時実施し、教員が日々の業務に余裕をもって児童と関われるよう校務改善を図っていく。	C	1
た 自 個 別 の 目 標 を い き ま す	困難のある児童・生徒一人ひとりの状況にあわせて教育環境を整え、相談機能の充実を図ることで、すべての児童・生徒が自分らしくいきいきと生きるための学びを支援します。	①インクルーシブ教育システムの構築に向けて、教員の資質・能力の向上や校内における支援体制の充実、特別支援教室巡回指導教員との連携等を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	・「自分にはよいところがある。」と回答した児童の割合 85.8% ▽ (87.3)	4: 90% 以上	○不適応の早期発見や不登校の防止のため、日常的に児童の観察や児童理解を深め、学校生活に困難さを感じている児童の成育歴や特性等の把握に努めている。また、スクールカウンセラーの活用や保護者への働きかけを通して、当該児童にとって、より学習や生活がしやすくなるよう、特別支援教室や外部機関等と円滑な連携が取れるよう校内体制を整えておく。	A	5	・ポケモンカードに関する事案への学校の対応についての話を伺いました。関係する児童・保護者の間で受け止め方に違いがある中、被害を受けたとされる児童が、現在、特定の児童を避けながら学校生活を送っていると伺っております。こうした状況は、当該児童やその保護者にとって十分に安心できる環境とは言えないのではないかと感じております。学校におかれましては、引き続き状況を丁寧に見守っていただくとともに、当該児童が安心して通学できる環境づくりに、可能な範囲でご配慮をお願いできれば幸いです。 ・学校としての対応で最も難しい部分と思えます。保護者や外部の専門家の協力を密にして協働しながら対応できる環境づくりが進むことを望みます。 ・学校内いじめは教育委員会マターでなく、警察が関与すべき犯罪であるという認識を望むべきです。組織的に隠蔽することがあってはならない。早期発見・早期対応が大切。 ・生徒たちが自分自身に自信を持って欲しいです。それが些細なことであっても。										
		②学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見、早期対応等のための組織的な対応を実施している。	4:「組織的な対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満の教員が回答した。 2:60%以上80%未満の教員が回答した。 1:「組織的な対応ができた」と回答した教員が60%未満であった。								3	3: 80% 以上	○全ての教育活動及び道徳や学級活動において人権教育を推進し、多様な個性や特性等を認め合う共生社会の実現を目指す。日常的に起こりうる児童間のトラブル等の未然防止と早期発見と解決に努める。特にいじめについては、週1回教員全体で情報を共有し、未然防止の徹底と早期対応を図り速やかに解決に導き再発防止に努める。	B	5					
		③スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携等、児童・生徒・保護者が相談しやすい環境を整備し、一人ひとりの能力や可能性を最大限に伸ばすことを意図した指導や支援を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。													3	2: 70% 以上	○児童の自己肯定感を高めるために、学級及び各教科の授業等において児童理解に基づき個に応じた指導や対応を心がける。同時に集団における自己有用感等を育んでいく。	C	
安 柔 個 別 な 目 標 を い き ま す	学校施設について、ICT環境等の教育環境の整備を推進するとともに、児童・生徒の安全・安心を向上させるための教育を推進します。	①学校や地域の伝統・特色や、安心・安全な学校生活づくりを踏まえて、学習環境を整備している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	・保護者アンケートによる学校評価における学校満足度の割合 96.3%▲ (82.4)	4: 90% 以上	○定期的に教職員全体で校内外の日常点検を心掛け、月1回等の点検の際に施設の破損等を、区への報告と共に速やかに修繕を図っている。また、豊かな自然環境を維持しつつも、児童が安心して学習できるように害虫対策を講じながらビオトープや樹木等の維持管理を細目に行っている。	A	9	・昨年度は、通学路における危険箇所の確認などについて、PTAとしてもご協力させていただいておりました。今年度につきましては同様の取り組みが行われているか把握できておりませんが、校内の環境に限らず、通学路を含めた学校周辺の環境についても定期的に状況を把握していただき、必要に応じて区への報告や改善の要望をご検討いただけましたら幸いです。 ・校舎内外の日常点検はよく実施されており、樹木等の維持管理も十分なされている。 ・災害等に対する意識は高く、様々な訓練が実施されている点は心強いと感じています。										
		②避難訓練や安全指導日などを通して、危険や災害に対する教育を関係機関と連携しながら進めている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。								3	3: 80% 以上	○月1回の、様々なケースの災害(地震・火災・水害・Jアラート)等や不審者侵入を想定した避難訓練を実施し、都度、避難経路の確認や改善、児童の危機管理意識の醸成のため、反省を基に学級及び全体で安全指導を実施している。	B	1					
																2: 70% 以上	C			
																			1: 60% 未満	D
学 地 学 校 別 の 目 標 を い き ま す	地域コミュニティの核としての学校づくりや地域の特色を生かした学校づくりを進めるとともに、学校・家庭・地域が連携・協働して、地域社会全体で子どもたちを育成します。	①「地域コミュニティの核としての学校づくり」を目指して地域と学校が連携・協働した様々な活動を実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	・保護者アンケートによる学校評価における学校満足度の割合 92.5%▲ (80.2)	4: 90% 以上	○今年度まで、年4回の地域教育連絡協議会や学校支援地域本部等と連携して、児童の安全・安心の見守り、学校行事の補助、校舎内工事のための片付けが円滑に出来ている。今後も持続可能な観点で夏休みのわくわくスクールの企画・運営等を改善しPTAと連携して実施し、児童の校外における活動を充実させることができた。次年度は、これらの活動がCS(コミュニティスクール)を発足し、さらに円滑に組織的な活動になれるように様々な情報収集及び地域等への働きかけを工夫していく。	A	7	・PTA執行部といたしましては、学年親子レクリエーションや起動販売車イベントなど、親子で参加できる行事の開催に力を入れてまいりました。イベントの際に、保護者同士が連絡先を交換する様子も多く見られ、保護者間のつながりを深める一助になっているのではないかと感じております。今後はCS(コミュニティ・スクール)という枠組みの中でのPTAのあり方についても考えながら、学校や地域と連携し、CSの運営に協力していければと考えております。 ・学校と地域・家庭と地域・学校と家庭相互の結びつきはまだ弱いように思う。来年度から始まるコミュニティスクールでなにかができるか。 ・地域の行事に積極的に参加して欲しいです。										
		②登下校の見守り活動等の、児童・生徒の健全育成や安全指導に係る取組を地域の協力により実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。								3	3: 80% 以上	B	3						
		③家庭教育に関する情報の発信やPTAなどと連携した講演会・学習会、またはその双方を実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。												3	2: 70% 以上	C			
																			1: 60% 未満	D

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。

○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめる。

○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載する。